

協力隊がゆく ⑥0

こんにちは。空き家用・移住定住担当の矢動丸です。

山の本々が初夏の色に変わってきました。初夏といえば、新茶の季節。

先月、市内の茶畑へ行き、茶摘み作業に参加して

きました。日頃から高粱紅茶をはじめ、市内で作られているお茶を飲むことはありま

すが、茶畑に行くのも、お茶の葉を触るのも初めて。青々と

したお茶の木から新芽を見つ

け出し、一つ一つ摘んでいきます。

試しに摘みたての生の茶葉をかじつ

てみると、青苦い中にもほのかな甘

みやお茶ならではの香りがあり、何

だか感激してしまいました。こうし

て黙々とお茶を摘み進めていくこと

数時間…、時間が過ぎるのがあつと



隊員 矢動丸 祐子

いう間で、とても貴重な体験でした。摘んだ茶葉は少しだけ持ち帰らせていただき、自宅で製茶もしてみました。できたお茶は、緑茶と烏龍茶の間のよう

な味わいで、作るたびにお茶の味が

変化するなど、製茶する楽しみも体

験することができました。普段何気

なく飲んでいるお茶も、こうして生

産する人や加工する人がいると思

と、どんな一杯も大切に飲みたく

なりますね。茶摘みを通じて、また

ひとつ高粱の魅力を知ることができ

ると同時に、この魅力を市内外にも

と発信していきたいと感じました。

広報紙はもちろん、今後はインター

ネットなどでもたくさんお伝えして

いこうと思います。

地域おこし協力隊フェイスブック



松原で行われたお茶摘み体験に参加



摘んだ茶葉を自宅で製茶しました



成羽病院通信 ⑩3

成羽病院 ☎ 42-3111

新院長から市民の皆さんへ



院長 真壁幹夫

4月に成羽病院長の職に就任いたしました。眞壁幹夫と申します。新見市出身で、総社高校を卒業後は岡山大学に進学し、昭和60年に医師となりました。外科医としての修練や大学での研究を終えて、平成5年からの10年間は呼吸器外科医として、その後は施設を変わり、一般・消化器外科医として勤務しました。

私が携わった手術の多くは胆嚢結石症、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどの良性疾患でしたが、胃がんや大腸がん、肺がんなどの悪性腫瘍の患者さまの診断や治療にもあたりました。

近年は、内視鏡手術の導入により入院期間が短縮され、胆嚢結石症や虫垂炎では待機手術とすることで多くの患者さまは入院が2泊程度で退院可能となっております。当院でも、このような良性疾患に対し短期入院での手術を導入していきたいと考えております。

この春から、私以外にも内科で藤井祐里花さん、荒木晴さん、奥山隆貴さんの3人の新しい医師が赴任しています。また、紙谷晋吾前院長、鶴見尚和副院長にも、引き続きご活躍いただきます。若い力とベテランの経験と知恵をうまく組み合わせ、成羽病院を盛り上げ、地域医療に貢献できるよう努力していく所存です。どうぞよろしく願いたします。